

第16話「話題を変えるなら」

課題	会話の途中で話題を変えたら、相手を驚かせてしまった
ストラテジー	話題を変えることを先に伝える
効果	- 会話の中で自然に話題を変えることができる - 相手を驚かせたり、相手のことを考えないで話題を変えたという印象を与えないようにすることができる

<課題>

会話の途中で話題を変えたら、相手を驚かせてしまった



(スアンが話題を変えた場面)

太田：ちゃんと寝ないとだめよ。体力が基本だから。
 スアン：はい。麗さんの秋の行楽弁当、どうになりましたか？
 太田：えっ、その話？

スアンは太田との会話で突然話題を変えて、太田を驚かせました。スアンとしては、太田の「ちゃんと寝ないとだめよ。体力が基本だから。」という声掛けに対して「はい」と答えて、そのやりとりを終わらせたいつもりでした。だから、気になっていた麗のお弁当の話へと話題を変えました。しかし、太田は話題が変わることを全く予想していなかったのでしょう。「えっ、その話？」と言って驚いた様子を見せました。スアンの体のことを心配していたのに、突然全く違う話題(麗のお弁当のこと)へと変えられてしまったことを心外に感じていることがその様子からわかります。

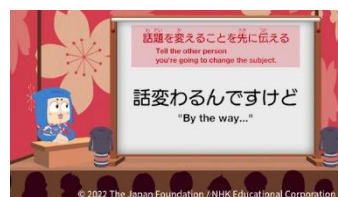
<ストラテジー使用場面>



麗：ホール係、初めてだね。
 スアン：え、わかりますか。
 麗：見てれば誰でもわかるよ。
 わかんないことがあったら、聞いてくれていいから。
 スアン：ありがとうございます。あっ、話変わるんですけど…。
 麗：ん？
 スアン：秋の行楽キャンペーンのお弁当…どうになりましたか。
 麗：ああ…まだ決まってない。アイデアは出したけどね。

<スアンが使ったストラテジー>

話題を変えることを先に伝える



スアンは太田との会話では、いきなり関係のない話を始めてしまい、太田を驚かせてしまいました。今回の麗との会話では、「話変わるんですけど」と話題を変えることを先に伝え、麗を驚かせることなく、話題を変えることができました。

<どんなストラテジー？>

このストラテジーは、会話をうまく行うためのストラテジーの一つです。日常の会話では、話題が次々と移り変わっていくことがよくあります。また、自分から話題を変えたいと思うこともあるでしょう。ただ、話題が次々と移り変わっていくと言っても、前の話題と次の話題には関連があることがほとんどです。そのため、自分が話したいと思った話題が、それまでの話題と全く関連がない場合、相手にとっては突然話題が変わったと感じたり、新しい話題と前の話題との関連が見つからず戸惑ったりすることになります。話題を変えることを先に伝えておけば、相手はこの後に違う話題が始まるのが予測できるので、心の準備もできますし、前の話題と関連がなくても戸惑わないですみます。

<どうやって使う？>

このストラテジーは、自分が話したい話題を始める前に、話題を変えるということをあらかじめ相手に知らせるというものです。このストラテジーを使うときに大切なのは、タイミングです。話題を変えと言っても、相手の話を途中でさえぎるのはよくありません。一つの話題を終わらせてから、このストラテジーを使って話題を変えることを伝えることが大切です。タイミングに注意して、もう一度スアンがこのストラテジーを使った場面を見てみましょう。

麗： ホール係、初めてだね。

スアン： え、わかりますか。

麗： 見てれば誰でもわかるよ。

わかんないことがあったら、聞いてくれていいから。

スアン： **ありがとうございます。** あっ、話変わるんですけど…。

麗： ん？

スアン： 秋の行楽キャンペーンのお弁当…どうになりましたか。

麗： ああ…まだ決まってない。アイデアは出したけどね。

麗の「わかんないことがあったら、聞いてくれていいから。」という申し出に対して、スアンは「ありがとうございます。」と答えています。スアンのように、相手の話に対して反応を返すことで、一旦話題を終わらせることができます。このように、前の話題が終わったあとで、このストラテジーを使うといいでしょう。

＜もう一歩＞「あっ」の効果

「話変わるんですが…」と言う前に、スアンが「あっ」と言っていますが、この「あっ」にも重要な役割があります。この「あっ」は、突然何かを思い出したり、気づいたりしたときに出現する表現です。そのため、「話変わるんですが…」の前に「あっ」を付けると、意図的に話題を変えるのではなく、ふと思いついて話題を変えた、という印象を与えることができます。「日常の会話では次々に話題が移り変わっていく」と前に書きましたが、話題が移り変わることの多い雑談の場面では、全く違う話題に変えるときは、「あっ」と言って意図的ではないことを伝えようと自然に聞こえます。このような「あっ」は#12の会話を終わらせたいというサインを出すストラテジーでも使われています（「あっ、そろそろ行かないと」）。

一方で、例えば、すぐにその場を立ち去らなければいけないが、これだけは言っておかなければならない、など、どうしても話題を変える必要性があったり、自分の意思で話題を変えることを伝えたい場合は、「すみません、話変えてもいいですか（ごめん、話題変えてもいい）？」のような表現を使うことで伝えることができます。その場合は、自分が話題を変えることに対して「すみません（ごめん）」と断りを入れ、「話変えてもいいですか（話題変えてもいい）？」のように相手に許可を取る表現を使うといいでしょう。「変わる（自動詞）」ではなく、「変える（他動詞）」を使っているところもポイントです。